

令和元年度

近畿大学附属小学校 学校評価 総括



近畿大学附属小学校

KINDAI UNIVERSITY ELEMENTARY SCHOOL

1. 令和元年度 学校方針

(1) 学園の建学精神

「実学教育」と「人格の陶冶」

(2) 学園の教育の目的

人に愛される人 信頼される人 尊敬される人 を育成することにある

(3) 本校の教育目標

自立した学習者の育成
社会に役立つ人材の育成

(4) 本校教育の三大方針（智・徳・体）

智をほりおこす「叡智教育」
心をみがく「道徳教育」
体をきたえる「健康教育」

(5) 本年度の学校経営方針

- 建学の精神の具現化
- 高い進路保障
- 智・徳・体の健全な育成

(6) 本年度の重点目標

- ① 「新学習指導要領」の趣旨を理解し、日々、より質の高い教育活動が展開できるように努力する
- ② 附属中学校への推薦制度の更なる改善を目指すとともに、確かな基礎学力を定着させる方策を検討する
- ③ 教職員個々が自らの人格の成長に努めるとともに、授業の質を向上する
- ④ 思いやりの心を育み、正しい生活習慣を身につけさせるとともに、友だちを大切にし、協働する喜びを感じられる教育を心がける
- ⑤ ICTを活用した教育活動を推進し、教育の多様化と効率化を追求するとともに、高度情報化社会の中に生きる児童の適用力とモラルの向上を目的とした教育を行う
- ⑥ 社会人として、自らの言動に注意し、明るく健全な職場環境の維持に努める
- ⑦ ICTの活用や業務の見直しなどにより仕事の効率化・ペーパーレス化を図る
- ⑧ 教職員全員の共通理解のもと、児童の募集に向けて総力をあげて取り組む

2. 近畿大学附属小学校 学校評価について

(1) 学校評価の目的

具体的な視点で重点化した年度目標や具体策の達成状況を把握し、評価サイクルの繰り返しによって、学校運営を改善し、教育の質の向上を図るとともに、学校関係者評価の実施や評価結果の公表等の取り組みを含めた、年間を通した評価活動を実施することにより、教育内容の充実を図る。

(2) 学校評価の種類

自己評価：教職員による評価ならびに、児童アンケート・保護者アンケート・保教会運営委員アンケートによる結果

学校関係者評価：附属中・高等学校校長、附属幼稚園教頭、近友会会長、保教会会長、校長、教頭、教務部長により構成する評価委員会が、自己評価の結果について評価するとともに、改善策等についての提言・勧告を行う。

(3) 評価基準

- S : 目標を上回って達成した (5.0 ~ 4.5) A : 目標どおり達成した (4.4 ~ 3.8)
B : 取り組んだが達成できなかった (3.7 ~ 3.1)
C : ほとんど取り組むことができず、目標も達成できなかった (3.0 以下)

3. 自己評価について

(1) 教職員による評価

1. 学校経営の重点 (1) 目 標 ○ 開かれた、信頼される学校づくりを進めるため、学校として、あるいは、学校やクラスとして抱えている課題に対し、組織的な学校運営を行う。 ○ 教育活動を広く公開、発信していくことで、在校生保護者との信頼関係づくりに努める一方、開かれた学校づくりを通して、定員確保に向けた児童・園児募集活動を展開する。 ○ 学校をあげていじめの未然防止に努め、いじめの早期発見と、組織的な事案対処を行う。		
評価項目	取り組む内容 (指針)	達成状況
①組織運営	初期対応に重点を置き、教育相談室長、学年主事、学年主任と連携を深め組織的な対応を行う。学年会、学年主任会を有効に活用し、必要に応じて柔軟に話し合いの機会を持つ。「報告・連絡・相談」を組織的に行う。	A
③情報の発信・児童募集活動	「開かれた信頼される学校づくり」の実現のため、学級通信、きんちゃんしょうちゃん日記等を通じて、家庭や入学希望者への情報発信をするとともに、定員確保に向けた児童・園児募集活動を展開する。	A
②いじめ対策	いじめが起きにくい環境、いじめを許さない環境づくりに努め、事案に際し、迅速な組織対応を行い、必要に応じてアンケートや個人面談・保護者面談を実施し、校内研修を充実する。	A
結 果 と 分 析 ・ 次 年 度 へ の 改 善 点		
<p>① 学校組織として、案件毎に、どこに何を報告・相談すればよいかが明確になっており、組織的な対応ができていた。学年主事や教育相談室長など相談できる場所が多々あり、環境が整っている。 今後も、教員個々の資質の向上を目指し、学級内や児童への小さな変化も見逃さないように心がけ、初期対応に重点を置いて学級内の問題行動に対する未然防止、早期発見に努める。</p> <p>② きんちゃんしょうちゃん日記や学級通信は、担任に負担がかかりすぎないようにしている。 きんちゃんしょうちゃん日記の発信は、学舎・学習旅行では頻繁にアップできていたが、日常の教育活動のアップは少なかった。日記や学級通信等の内容面では、保護者が求めている情報発信ができていないのかを考えていく必要がある。 少子化が急激に進む中、児童・園児への募集活動は、定員確保へ向けて全教職員が意識を高く持って、次年度以降も取り組んでいく必要がある。</p> <p>③ 年2回実施しているQ-Uテストで児童の学級に対する思いや状況を把握したり、児童の内面の変化を確認したりすることで、児童への対応の指針となっており、今後も継続して続けていく必要がある。いじめ事案に対する組織対応の在り方が確立しつつあり、学級内だけでなく、学年・フロアの見守りが行き届いていた。今後も本校の「いじめ防止基本方針」に従って、各教員にアンテナを高くかけ、普段から、児童への声掛けや細かい目配りを怠らず、学校全体で「いじめの芽」を防ぐ実践を進めていく必要がある。</p>		
2. 学習指導・研修の重点 (1) 目 標 ○ 本校の特色を生かしたシラバスの作成、具体的な幼小接続プログラムの実施を通して、本校独自の教育活動を追究する。 ○ 国語科・算数科の基礎学力の定着と、ICT教育をはじめとした学習環境の充実を図る。 ○ 教員一人一人が本校で果たすべき役割を自覚できるよう、各種研修会を充実させるとともに、指導力の向上を図る。		

評価項目	取り組む内容（指針）	達成状況
①本校独自の幼小一貫教育の確立	新しい教科書の選定とシラバスを作成する。また、各教科におけるプログラミング的思考を生かした授業の実践、『幼小連絡会』を通じた、具体的な幼小接続のための実践を行う。	B
②学習環境の充実	国語科・算数科の指導力向上と、児童の基礎学力の定着、意欲のある児童をより伸ばす取り組みの実践等、他校にない特色あるICT教育を実践するとともに研究を進める。	A
③近小の教員としての教員研修	若手教員対象の基本研修、ICT研修等の教員研修、児童の特性や保護者の多様化に対応するための教員研修、西私小連研修など各種研修会への参加及び伝達研修を実施する。	A

結果と分析・次年度への改善点

- ① 幼小連携については、主に1年生との間で具体的な話し合いが進められたが、具体的な連携の内容については、幼稚園側からの提案を増やし、小学校も話し合いに参加していく必要がある。プログラミングについては、情報の授業を中心に進めていく目途が立ったが、各教科の授業の中での実践についても情報を収集し、校内研修の機会を設ける必要がある。シラバスの作成については、目安となる指導書を参考に、次年度前半での完成を目指す。
- ② ICTについては、低学年教室へのプロジェクター設置、Wi-Fi環境の増設が急務である。チーム国語・算数での授業研究は、少人数での実施であるため、意見交換がしやすく、研鑽を深める機会となっている。ただ、基礎学力の定着が実際に図られているのか、また、それ以前の教室環境や児童の授業に臨む態度について教員がチェックできているのか、など、課題は山積している。教科指導の力を伸ばす事も大切ではあるが、日常生活指導や学校行事において児童のどのような力を伸ばせているのか、そういう点にも目を向ける必要があり、総合的な指導力の向上を目指す必要がある。
- ③ 校外研修への参加を含め、多くの研修の機会を持つことができた。また、ICTや特別の教科道徳の教科化などについての研修も必要である。また、ICT公開授業を行うことができ、本校教育の具体を発信することもできた。来年度も従前以上に取り組みを進めていく必要がある。

3. 生活指導・児童活動・保健衛生・環境整備の重点

(1) 目標

- 規範意識を育成し、高めていくための具体的な目標を設定し、学校全体で徹底した指導を行う。
- 子供たち自らが諸問題を解決しようとする自主的、実践的な態度を育てる。また、異年齢交流を深め集団の一員としてよりよい生活や人間関係を築こうとする態度を育てる。
- 体育的行事を通して、安全な行動や規律ある集団行動を体得し、運動に親しむ態度を育てるとともに、体力の向上を図る。

評価項目	取り組む内容（指針）	達成状況
① 生活指導と安全	年間生活目標（挨拶、身だしなみ、登下校マナー）を柱とした全教員による徹底指導を進める。防犯・防災訓練等を計画的に実施する。保教会や地域、警察との連携を強化する。	B
② 児童活動	各集会やたてわり活動、附属幼稚園との活動を計画的に実施する。	A
③ 保健衛生と体育	体育的行事の計画的な実施と怪我予防や熱中症、感染症等の対策を講ずる。	A

結果と分析・次年度への改善点

- ① 朝礼や放送、生活向上委員会、週番の活動、校内の掲示などを工夫して、児童が主体的に規範意識を高め、近小生としての誇りを持って過ごせるように努めた。また、登下校方面別集会を持つことにより、高学年が低学年を世話したり、見守ったりできるような意識も少しずつ持てるようになってきた。しかし、乗車マナーについて一般乗客からのご意見・苦情もあり、引き続き全教員による指導の徹底と工夫、家庭への啓発が必要である。今年度から、許可制にした災害時や緊急時のための機器については、約半数以上の申請があり、一定の効果がみられた。反面、使用についての再確認や年毎の

申請等が必要である。

- ② 実行委員による集会やたてわり活動、附属幼稚園との活動を計画的に実施することができた。他の行事との兼ね合いで時間的制約があり、学年によっては活動の差が生じた。異年齢の交流によって育まれるものは多くあるだけに、日常的に取り組む工夫や他の学年の取り組みを共有することなども考えていく必要がある。
- ③ 運動週間を設定し、児童の運動機会の増加、体力の向上を図ることに努めた。また、怪我防止につながるよう朝や昼休みなどに体操を実施した。体育行事については、安全を重視し、暑さ指数をもとに熱中症対策などを徹底し、大きな事故もなく無事に終えることができた。今後は、児童の体力や教員の指導体制を考慮し、安全面や内容を精査して計画する必要がある。感染症予防などについては、手洗いや消毒の励行、マスクの着用や咳エチケット等の注意喚起に努めた。機器の設置や家庭との連携も含めた対策をより一層考えていく必要がある。

4. 進路指導・学習評価の重点

(1) 目 標

- 個々の学力推移を的確に把握し、進路に対する保護者の意向や児童の思いを尊重しながら進路指導を進めていく。
- 何事にも元気に真面目に頑張る態度を身に付けさせ、附属中学校・高等学校の6年間で十分についていける人物を育成していく。
- 進路追認を進めていくとともに、卒業生による進路学習を充実していく。

評価項目	取り組む内容（指針）	達成状況
① 適切な進路指導	個々の学習状況の把握に努め、必要に応じた支援を取り入れていく。また、高学年においては、各中学校の情報を収集・共有し、進路指導の充実を図っていく。	A
② 進路保障（内部進学）	柔軟な進路選択と高い進路保障をさらに進めていく。特に、昨年度変更した内部推薦制度については、中学校との連携を図りながら、よりよい運用を進めていく。	A
③ 進路学習の充実	同窓会とも連携しながら、卒業生による進路学習を充実していく。	A

結 果 と 分 析 ・ 次 年 度 へ の 改 善 点

- ① 個々の学習状況の把握に努め、必要に応じて補充学習を取り入れ、効果を上げることができた。また、3学期に行った「学力考査」においては、学年全体から見た個々の学習状況の分析をし、課題のある児童への指導の方向性を指し示すことができた。また、内部進学する児童に試行的に基礎学力テストを実施し、個々の学習状況を見つめ直させることができた。今後も、より効果的な支援を進めていき、確実に基礎学力の定着を図っていくようにする。
- ② 努力評定を取り入れた内部推薦制度を運用し、内部推薦者54名（学年全体の48%、前年比+7%）を決定した。また、学年全体における内部推薦確定率は約90%（前年とほぼ同じ）となり、課題は残るものの進路保障を概ね達成できている。さらに、昨年度から「小学校での内定コース」を実現することができ、進学する児童の学力は、附属中学校の各コースの水準に相応な結果を概ね残している。次年度以降は、小学校での学力保障を含め、評価基準等の精査ならびに児童指導規定をもとにした判定基準をさらに充実させていく。また、保護者には、学校方針説明会をはじめ、進路説明会等を開催し、本校の進路指導について発信することができた。
- ③ 進路学習を年間5回、計画することができた。今後も、卒業生による進路学習を充実させていく。

(2) 児童アンケートの考察

本年度は、新型コロナウイルスによる突然の学校休業を余儀なくされたため、児童に対するアンケートを残念ながら実施することができなかつた。今後は、このような事態を想定し、ICT機器の利活用を一層進め、実施できるように改善していく。

(3) 保護者アンケートの考察

1年間を振り返り、子供の成長を喜んでおられる意見を多数いただいた。併せて、担任等

の対応に対する労いの言葉も多くいただいた。また、本校の教育活動についても建設的な意見を多数頂いた。それらの意見に甘受することなく、厳しい意見にも真摯に受け止め、来年度の教育活動に活かしていく所存である。

尚、各項目別の内容ならびに改善を図るべく方向性等については、次の通りである。

－学校方針について－

学校方針・教育方針については、従前どおり、引き続き、叡智教育・道徳教育・健康教育の調和のとれた教育活動の充実に努める。今後も、伝統を引き継ぎながら、時代のニーズに応えられるよう教職員一丸となって取り組みを進めていく。近畿大学学園の附属校として、幼稚園・中学校・高等学校、大学との連携を一層深め、より充実した学園ならではの教育を推進していく。

－学習指導要領の改訂を受けて－

新学習指導要領で求められている「主体的・対話的で深い学び」を実現するために教員研修を進めるとともに個人持ちの iPad を利活用することになり、学習活動の幅を広げることができた。今後も、低学年より ICT 機器の正しい利用の仕方を身に付けさせながら、学習活動の幅を広げることができるよう指導を進めていく。5・6年生算数科の学習では、eラーニング教材として「Qubena」を導入することを計画している。また、従来通り、体験を通した学習活動の機会を多く持ち、「本物に触れる」学習を継続していく。

本年度より、英語科についてはALT（ネイティブスピーカー）と日本人教員の2人体制で実施し、授業の充実に努め、体験的な活動を取り入れながら、実践的コミュニケーションを重視した本校独自の英語教育の確立を目指して取り組みを進めていく。併せて、英語科参観ウイークを設け、その一端をご覧頂いた。

－生活指導・安全指導について－

本年度も「あいさつ」「身だしなみ」「登下校マナー」を重点目標として、学校全体で取り組みを進めてきたが、残念ながら、保護者の皆様方からは「挨拶が十分ではない」とのご指摘が寄せられた。各ご家庭のご理解とご協力を得ながら、「あいさつ」を進んでできるよう学校全体の取り組みを一層進めていく。

本年度より希望されるご家庭に「キッズ携帯（スマホは不可）」に限り所持を許可することにした。来年も継続していく。

－ケータリング給食について－

今年度は4回の試食会を設け、多くのご意見を頂いた。「回数を増やして欲しい」とのご要望もあるが、来年度も週3回のケータリング給食を、学期毎の選択制を取り入れ実施していく。また、安全で安心して摂食できるよりよいケータリング給食を目指して、業者と協議を進めていく。今後、さらに児童が楽しみにするようなケータリング給食となるよう改善を進めていく。

－近小ゼミについて－

4年生以上については、教員が役割を分担し、習熟度別のグループ編成での近小ゼミやステップUP学習を実施している。来年度も、児童個々の学力の状況に合わせた学習を促進するため、eラーニング教材として「すららネット」を近小ゼミにて利活用することで指導効果の向上を図る。

－進路・進学について－

進路・進学についての情報の開示に努めるとともに、各学年に応じた進路説明会の実施等により、柔軟な進路選択と高い進路保障を実現するための取り組みを進めていく。併せて、附属中学校への内部進学については、得点や模試の偏差値では測れない学力や主体的に行動することができ、「生きる力」にあふれた児童を推薦する基準に基づき、希望コースを含め、内定を頂いている。今後は、基礎学力の充実に努め、よりよい推薦制度の構築を図っていく。

－ 保教会活動について－

児童を中心に保護者、教職員が一つとなれるように、保教会行事等の精選を行い、今後ともよりよい関係の構築に努めていく。また、保教会役員・委員の負担が過剰とならないように、継続して協議を進めていく。

－ 学級や授業の雰囲気について－

学年主事を中心として、若手教員の資質向上はもとより、各教員の資質・指導力・力量等の向上に努め、学年集団の連携を深め、それぞれの学年の指導の充実に努める。また、ホームページ、サイバーキャンパス等を活用して、学校生活の様子をより詳細に開示していく。

(4) 保教会運営委員アンケートの考察

児童アンケート同様、本年度は、新型コロナウイルスによる突然の学校休業を余儀なくされたため、保教会運営委員の皆様に対するアンケートを残念ながら実施することができなかった。

4. 学校関係者評価について

(1) 教職員による評価の結果について

本校の教育活動について全般的に高く評価して頂いた。一方、ICT教育をはじめとした質の高い教育を提供できるように学習環境の整備や指導の改善、生活指導や児童活動については、一層の充実に努めるべく、取り組みを進めていくようにとの提言を受けた。



(2) 保護者によるアンケート結果について

保護者の皆様から高評価を頂いていることを踏まえて、学校に対する厳しい意見が少ないとは言え、実際にあることを前提に、批判に対しては、謙虚に耳を傾けると同時に、速やかに改善を図るようにとの提言を受けた。

(3) 総括

以上、本年度の教育活動について概ね了承が得られた。引き続き、近畿大学学園の附属小学校として、附属幼稚園との一貫教育に基づく教育活動を展開するとともに、附属中学校・高等学校、大学との連携を深めていくことで、私学としての質の高い教育を提供し、児童や保護者の信頼や期待に応えられるよう教育改善を進めていくようにとの提言を受けた。

併せて、新型コロナウイルスによる学校休業による教育活動の遅れ等への対応について喫緊に改善策を講ずるようにとの提言を受けた。

そこで、来年度は、次の8点を具体的方策として掲げて、教育活動を推進していくことを提案し、了承を得た。

- ① 建学の精神・教育目標の理解・共有化
- ② 教員のスキルアップ
- ③ 附属中学校への進学
- ④ 新しい時代の教育への対応
- ⑤ 仕事の効率化、ペーパーレス化
- ⑥ 危機管理意識の向上
- ⑦ 附属幼稚園・小学校の接続の意識化
- ⑧ 園児募集・児童募集の充実

